

令和2年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第8号
(10月の発生予想)

令和2年10月2日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【かき】

円星落葉病	量：やや多い	主要感染期の連続した降雨により感染が助長された。(+) 9月下旬の発生量は平年並。(±)
すす点病	量：並	9月下旬の発生量は平年並。(±) 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
果樹カメムシ類	量：多い	9月下旬の被害果発生量は平年並。(±) 予察灯等の誘殺数は平年比多い。(+) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)

【夏秋きゅうり】

べと病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率1~25%)	9月下旬の発生量は平年比やや少ない。(-) 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
うどんこ病	量：やや多い 程度：中発生 (発病葉率26~50%)	9月下旬の発生量は平年並。(±) 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
褐斑病	量：並 程度：少発生 (発病葉率1~5%)	9月下旬の発生量は平年並。(±) 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
コナジラミ類	量：多い 程度：少発生 (成虫寄生葉率1~30%)	9月下旬の発生量は平年比多い。(+) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)
アザミウマ類	量：多い 程度：少発生 (寄生葉率1~5%)	9月下旬の発生量は平年比多い。(+) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)
ハモグリバエ類	量：多い 程度：少発生 (被害株率1~25%)	9月下旬の発生量は平年比多い。(+) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)
ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)	量：やや多い 程度：少発生 (寄生株率1~20%)	9月下旬の発生量は平年並。(±) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【秋冬だいこん】

べと病	量：並 程度：少発生 (発病度 1 ~ 15)	9月下旬の発生量は平年並。(±) 向こう1か月の気温は平年比高く(-)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
黒斑細菌病	量：並 程度：少発生 (発病度 1 ~ 15)	9月下旬の発生量は平年並。(±) 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
白さび病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病株率 1 ~ 20%)	9月下旬の発生量は平年比やや少ない。(-) 向こう1か月の気温は平年比高く(-)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (発生程度指数 1 ~ 50)	9月下旬の発生量は平年並。(±) 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
コナガ	量：並 程度：少発生 (寄生株率 1 ~ 10%)	9月下旬の発生量は平年比やや少ない。(-) 9月のフェロモントラップの誘殺数は平年並~やや少ないが、多発ほ場も認められる。(±~+) 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
オオタバコガ	量：並 程度：少発生 (寄生株率 1 ~ 20%)	9月下旬の発生量は平年比やや少ない。(-) 野菜・花き類全般のオオタバコガの項を参照。

【秋冬ねぎ】

さび病	量：並 程度：少発生 (発病度 1 ~ 5)	9月下旬の発生量は平年並。(±) 向こう1か月の気温は平年比高く(±~-)、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
黒斑病・葉枯病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度 1 ~ 20)	9月下旬の発生量は平年比少ない。(-) 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
軟腐病	量：多 程度：少発生 (発病株率 1 ~ 5%)	9月下旬の発生量は平年比多い。(+) 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
ネギハモグリバエ	量：やや多い 程度：多発生 (被害度 21 ~ 30)	9月下旬の発生量は平年並だが、甚発生ほ場も認められる。(±~+) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)
ネギアザミウマ	量：並 程度：甚発生 (被害度 31 以上)	9月下旬の被害発生量は平年比やや少ないが、甚発生ほ場も認められる。(-~±) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>・収穫が近く発生が多い場合は、収穫30日前頃から7~10日間隔で3~4回薬剤散布する。なお、薬剤選定の際は使用基準の収穫前日数に注意する。</p>		

<p>【作物名】 病害虫名</p>	<p>予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比</p>	<p>予報の根拠</p>
-----------------------	--	--------------

【秋冬ねぎ】つづき

<p>シロイチモジヨトウ</p>	<p>量：並 程度：少発生 (被害株率1~10%)</p>	<p>9月下旬の被害発生量は平年比やや少ない。(-) フェロモントラップ誘殺数は平年並。(±) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)</p>
------------------	---------------------------------------	---

【その他】

<p>【野菜・花き類全般】 オオタバコガ</p>	<p>量：並~やや多い</p>	<p>フェロモントラップの誘殺数は、平年並~やや少ない。(± ~ -) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)</p>
<p>【果樹・野菜・花き類全般】 ハスモンヨトウ</p>	<p>量：やや多い~多い</p>	<p>フェロモントラップの誘殺数は、平年並~多い。(± ~ +) 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)</p>

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1： 「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多
いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発
生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2： 「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、
(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。

使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使
いましょう。

農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺
の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。

農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。

水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしま
しょう。

新潟県病害虫防除所業務課

電 話：0258-35-0867

F A X：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

【参考】北陸地方 1 か月予報（10月3日から11月2日までの天候見通し）

（新潟地方气象台：令和2年10月1日発表）

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。

2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

3～4週目は、高い確率50%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20	30	50
降 水 量	40	30	30
日照時間	30	30	40

< 気温経過の各階級の確率 (%) >

	低い	平年並	高い
1週目 (10月3日～10月9日)	20	30	50
2週目 (10月10日～10月16日)	20	40	40
3～4週目(10月17日～10月30日)	20	30	50